

令和3年度 橋処理センター整備事業に係る地域住民と行政による検討協議会
第39回 議事録（要約）

日 時 令和3年7月16日（金） 18時10分 ～ 19時45分

場 所 川崎市民プラザ 2階会議室

1 会長あいさつ

2 議題

(1) 建設工事進捗状況について

【概要】

事務局から、建設工事進捗状況について工程表及び工事状況写真を用いて報告しました。

(2) ワーキンググループの設置について

【概要】

事務局及び会長からワーキンググループの設置について提案がありました。

ワーキンググループを新たに設置するのではなく、事務局が作成した案をもとに検討協議会のメンバーで、環境教育施設について協議を進めることになりました。また、教育関係者や環境教育指導者などへのヒアリングは事務局を中心に行い、協議会に報告し、案に反映していくことになりました。

【発言要約】

会 長： ワーキンググループの設置について説明をお願いいたします。

事 務 局： ワーキンググループの目的、体制、打合せ場所、環境教育及び環境学習機能に関する検討の方向性、スケジュール案等について説明（詳細省略）

会 長： 私からもワーキンググループについて提案させていただきます。協議会で議論してきた経過を無駄にしたくないと思いまとめました。

隣のリサイクルコミュニティーセンターを充実した施設にするためには環境教育に活用する以外ないと考えています。理念的なものは事務局の案と全く同じだと思いますが、教育施設を具体化する方向性が違うと思います。見学をすればまた行きたくくなるような施設、見学者が主体的に学ぶ施設でないと理念が活かされないと思います。ワーキンググループではそのことについて話し合うべきだと思います。環境啓発施設の目玉として地域の豊かな文化形成につながる施設にするためには、まわりの施設を活かすべきだと思います。

事務局提案と私の提案を含めてワーキンググループの設置について意見をお伺いしたいと思います。

市民委員： ワーキンググループは検討協議会に対して報告を出すということですが、検討協議会で報告を受けて最終的な案をまとめるということでのよろしいでしょうか。

事務局： そうです。

市民委員： ワーキンググループは、3人に限定せずこの検討協議会のメンバーで、平場で進めていくということもあるのではないのでしょうか。報告に対する疑問や疑義があった場合に、振り出しに戻る場合もあり、時間だけ経ってしまい合理的ではないと思います。ワーキンググループの3名も重複してしまうので、平場で話した方が効率的だと思います。検討協議会も当初は月1回のペースで開催していましたので問題ないと思います。開けたかたちでみんなの意見を出した方がよりオープンでディスカローズできると考えます。また、完成してから30年間は稼働するので、環境教育も変化していくと考えられます。固定化するのではなく、期間を決めて内容が変更出来るかたちにした方がいいと思います。先生方もお忙しいので、会議体への参加は難しいと思いますが、事務局でヒアリングしていただき、参考意見ということでここに出していただければ皆で話ができると思います。

次に、内容が固まるとそれによってリサイクルコミュニティセンターの方向性などの話ができると思います。ただ、内容によって建物も変化すると思っていますのでスケジュールが合うのかどうかというところですが、4月くらいに連絡通路の工事を行うなど具体化していくことが必要だと思います。

事務局： その通りです。前回もそういう方向性でお話したと認識しています。

市民委員： ここではCO2の問題はやらないという話でしたが、他にはないことをやらなければいけないと思っています。地域連携もあるので、王禅寺処理センターなど色々なところで取り組んでいることとは違うもので考え、かわさきカーボンゼロチャレンジ2050においても溝の口が対象エリアになっていますので、そのことも含めて環境教育の内容を考えていければと思います。

事務局： 川崎市として脱炭素については、今年度から進めているカーボンゼロチャレンジ2050というかたちで戦略を練っています。実際には、橘処理センターはこの方針に則って成り立ってはいませんが、発電機をつけて化石燃料をゼロとまでいきませんが発電効率を上げてそれを周囲に向けて使えるような取り組みや、市内の施設で電気を賄うような取り組みを行っていますので、広い意味では脱炭素戦略に則ったものと考えております。

市民委員： 例えば、小さな実験プラントを入れるというのも一つの方法だと思います。また、これからの環境教育は温暖化が一番の目玉になってくると思います。かわさきカーボンゼロチャレンジ2050の目標を設定して消費行動で変えていくということなので、それも含めて環境教育を考える必要があると思います。ここは、かわさきカーボンゼロチャレンジ2050のモデル地区でもあり、

そこにある新しい処理施設に対しては何らかの手を打つべきだと思います。

副会長：　かわさきカーボンゼロチャレンジ2050のお話をいただいたところですが、市民の方にもご協力いただく部分は多いと思います。前は、理念的なものを提出しましたが、今年度は計画づくりを進めておりますので、部署は違いますが、その計画がオープンにできるタイミングできちんとお伝えをしていきたいと思います。また、未来のイノベーションに繋がるような環境教育は私も同意見であり、環境教育という観点でいえばミニプラントのようなちょっとしたキットなど、考えているところの主旨は一致していると思います。先ほど期限を区切って検討した方がいいというご意見をいただきましたが、まさにその通りで、フェーズはどんどん変わると思います。今SDGsが目目されておりますけど、2030年がターゲットとなっている目標値です。脱炭素自体は2050年とかなり先を目指しておりますが、SDGsの目標である2030年をターゲットに物事を考えていくというのが社会の流れとともに、これからの子供たちにとっても意義があるのではないかと思います。

会長：　ありがとうございます。何かご意見はございますか。

市民委員：　子供たちに環境教育の中で、橋処理センターが2050年へ向けどのようになってゆくのか、何らかのかたちで見せていかなければいけないと思います。CO2の削減を考えれば、建て替えサイクルの30年を考慮すると次は2050年を過ぎてしまう。そういう問題も出てくると思います。

事務局：　市民委員から、いくつかご意見がありました。一つは人数の話です。資料では3名程度と書かせていただきましたが、出席の調整や意見交換ができるのであれば、人数の制限は考えておりません。もう一つは、協議会とワーキンググループを同じメンバーで同じ形式で行った場合、協議会は会長、副会長を置いて会議を進めおりますが、ワーキンググループではもう少しフラットに話をしたいと思いますので、協議会とワーキンググループをどう位置づけるのか、協議会に報告するという形式にするのか、それとも共同開催として最終回は、協議会で尚且つワーキンググループの最終回とする形式も考えられますがいかがでしょうか。

市民委員：　協議会では、疑問があれば手を挙げて話をしているなど、わりとフラットに話している場だと思っています。協議会でどのような議論があり、どうなったのかということを経営共有する必要があると思います。各委員が地域の代表であり、皆さん責任をもってここにいます。それであれば、内容をみんなで議論しながら進めた方が合理的だと思います。

事務局：　わかりました。

市民委員：　我々も細かい提案はできないので、平場で意見を聞いていただいてまとめるほうが良いと思います。ワーキンググループを作らなくても、この形式で進められると思います。

今日、会長案と事務局案が出ましたが前もって会長案を聞き、一つの案に

まとめてから提案するようにしてください。

会 長： わかりました。

事 務 局： 今日頂いたご意見は持ち帰り相談します。協議会の一環で進めることは問題ないと思います。

副 会 長： 協議会という名を使わなくてもいいかとも思います。メンバーは同じですが、少し硬くなるのではないかと思います。ブレインストーミングのように意見を言い合える場であれば、より皆さんの想像力も増してアイデアも浮かぶと思います。

市 民 委 員： 皆さんは、浮島や王禅寺の見学コースを見たことはあるのでしょうか。それと比較して橋ではプラスアルファとしてどのようなことをやっていくのかを考えるべきではないでしょうか。

事 務 局： 浮島や王禅寺には充実した専用の建物がありますが、橋では最新の技術を取り入れることが可能と考えており、我々はそのような内容を提案させていただきたいと思います。ものを作って置いておくだけで何十年も古びたかたちで残っていくような内容とならないように、IT 技術を使いコンテンツさえ変えれば様々なことに転用できるものと考えています。

市 民 委 員： リサイクルしたもので何かができるといいと思います。

市 民 委 員： まわりとの連携は重要だと思います。また、各施設のコンセプトがあると思うので、それに対して橋のコンセプトはどのようにするのかを整理する必要があると思います。それと、かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050 に向けてどういう位置づけになるのか、それを行政としてどう考えているのかを明確に出していただきたいと思います。また、SDGs の 2030 年に向けてどのようにしていくのかも明確にすることにより概要が見えてくるとと思います。その中で具体的な内容を考えればかわさきカーボンゼロチャレンジ 2050 とのフィット感も出てくると思います。そのようなものを資料として整理していただくと解りやすいと思います。

また、会議に参加できない人の意見を事前にヒアリングしていただければ、意見交換にも幅が広がり非常に機能的な会議になると思います。

会 長： 検討協議会の会の持ち方によって、特にワーキンググループを設けなくてもいい、むしろ設けない方がスムーズに進むのではないかというご意見が多かったと思いますが、かえって色々な点でつまずきの要因になりかねないと危惧される部分が出てくると思います。

行 政 委 員： 細かい内容までは分からないというご意見もありましたが、この場で教育関係者を呼んで細かい内容を聞いても時間がかかりすぎてしまうという懸念があります。3 名は繰り返しとなりますが、ワーキンググループで細かい内容についてつくり上げてこの場で話し合った方が、全体の時間でみると短縮できると思います。

- 市民委員：そこは全員が理解しないといけないことだと思います。3名がワーキンググループで説明を受けて、それを皆で情報共有をするのは難しいと思います。
- 副会長：合意が取ればですが、皆さんの意見を聞いていると一本化という進め方はあると思います。どこまで細かいところが詰められるかというところですが、一般の市民の方がご理解していただける環境教育とは何なのかというレベルでやるべきテーマだと思います。具体的にどうするかというのは、専門の方に任せるとい主旨だと思いますがいかがでしょうか。
- 市民委員：かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050 に対しての位置づけがどうなるのかなどの基本ベースだと思います。例えば、CO2の実験など、具体的なものが欲しいという話になると思います。細部もみんなが知っていないといけないと思うので、平場でいいと思います。専門領域はわからないと思いますが、一般的にわかることを出してそれで合意をしていくことが必要だと思います。
- 市民委員：事務局で案を作っただけであればいいと思います。
- 事務局：ご要望があれば、事務局で資料の用意やアンケートを行うことも考えられます。また、事前に資料を調整するのではなく、各委員からも取り組みについてお話がいただけるような、自由にものが言える場にしたいと考えています。
- 要領の改正案については会議体の形式だけの枠を作るために提案したのでこれについては持ち帰ります。今日の段階では要領はまとめられませんが、第一回目は開催させていただきたいと思います。協議会メンバーにお声掛けしますのでご出席していただければと思います。出席を予定しているカリキュラムセンターの方は社会科担当の先生で環境問題に対して広く関心を持たれている方で、川崎市地球温暖化防止活動推進センターの方も広く川崎市全体で活動されている方なので色々と話が聞けるとと思います。実際の現場で活動されている方々の意見が直接聞けるとと思います。
- 会長：スケジュール案の第一回目は開催したいとのことでしょうか。
- 事務局：開催させていただきたいと思っています。
- 副会長：市民委員の皆さまの意見をまとめて第一回目の資料を準備するにはもう少し時間が必要と考えます。早期にキックオフしたいという思いはありますが、ある程度、情報量のある案でないとなら皆さまからのご意見も出にくいと思います。8月にできるか検討させていただきたいと思います。
- 会長：特にワーキンググループを設けなくてもいいという方向になってきました。また、スケジュール案の第一回目は是非やらして欲しいとのことですがいかがでしょうか。
- 事務局：資料準備の時間が必要です。第一回目の開催時期についてはあらためて連絡します。資料の内容についても少しやり取りさせていただければと思います。メンバーは協議会のメンバーで考えています。

- 会 長： 第一回目は何について話し合いを行うのでしょうか。
- 副 会 長： カリキュラムセンターの先生や川崎市地球温暖化防止活動推進センターで活動している方へのヒアリング、浮島や王禅寺の取り組みなど市全体の動きがわかる資料があれば、橋が狙うところを平場で議論できると思います。
- 会 長： それはこちらのご都合のつく方は参加させていただけないでしょうか。
- 事 務 局： メンバー全員にお声掛けします。ヒアリングへの参加も構いません。
- 市民委員： 隣のリサイクルコミュニティーセンターを使うか使わないかという問題で方向性が変わってくると思います。
- 副 会 長： リサイクルコミュニティーセンターの方向性がもうすぐ見えてくるはずなので、そこもにらみながら議論をする必要があると思います。
- 市民委員： 我々はやめるという認識でいます。
- 副 会 長： そのような話がある一方で、先ほど会長から提案があったように市民プラザという施設があり、ここは人工地盤でつながるので当然連携もありますし、集客も市民プラザのほうが多く、色々な可能性がある場所だと思います。この資源を有効に活用するというのが一番重要かと思います。
- 会 長： 第一回目のヒアリングができる日程が決まりましたら、都合がつく方は参加してください。
- 他に何かご意見ございますか。
- 市民委員： 川崎市として環境問題で一番プライオリティが高いのは何かを明確にさせていただき、学校の現場で今問題になっていることも出てくればより具体的になってくると思います。かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050 の位置づけやSDG s の 2030 に対しての位置づけを資料として作ってほしいです。先生方がいらっしゃるは大変だと思うので、教育現場の意見もまとめていただいて表などにしていただけるとわかりやすいと思います。そういうものがあるとベースができてきて、内容についての議論を進めながら、それに応じた箱をどうするかという議論ができれば問題ないと思います。
- 会 長： ワーキンググループは無理して作ることはないということで了解してよろしいでしょうか。今後この議題については、案を出して進めていくということになりますが、そのための色々な情報は逐次出させていただくことになると思います。
- 市民委員： もともとワーキンググループを作ろうとしたのは、環境教育とか環境学習のことで始めたと思うのですが、教育関係となると学校の先生とか教育委員会の意見を聞いてから進めたほうがいいと思います。今は具体的にどういうことをやるのか、必要な環境がどういうものかが見えてこないです。具体的にどのようにやりたいのかをまとめてもらわないと次の段階に入れられないと思います。
- 提案資料に橋処理センター整備事業に係る地域住民と行政による検討協議会設置要領（案）とあるのですが、今までこれはなかったのですか。

- 事務局： 要領自体はありました。これはワーキンググループを作る内容を反映させた案になっています。
- 協議会と一体であればいいということであれば、この形式をとらなくてもいいと思います。
- 市民委員： この要領で協議会の設置期間は橋処理センター整備事業完了までとするということですが、協議会は整備事業が終わった時点で解散するということがよろしいでしょうか。それは何年になりますか。
- 事務局： おっしゃる通りです。竣工の令和5年の4月となります。
- 副会長： 会議体の形式ですが、会長、副会長は置かない方がいいと思っています。
- 市民委員： 別に置いても構わないと思います。ただ平場で皆さんと話ができればいいと思います。例えば今回の教育であれば、主に資料を作る事務局が司会をやるのも構わないと思います。
- 副会長： 案の資料を事務局が説明し、それに対する質疑応答及び意見交換をしていく場、ということよろしいでしょうか。
- 市民委員： 全然問題ないですし、そこは柔軟にやっていけばいいと思います。ワーキンググループを作っても権限がないとなんの意味もないので、検討協議会ということで進めた方がいいと思います。
- 事務局： わかりました。もう少し資料の調整も含めて話ができると思いますし、会長、副会長の予定が合わなければそれはなしでも構わないということよろしいでしょうか。事務局の方で責任をもって進められれば、出席者へのこだわりはなく、新たに要領は作らずに進めさせていただければと思います。
- 会長： 今までの検討協議会の進め方で反省すべきところがありましたが、それを踏まえ中身の濃いものにしていけると思いました。
- 第一回目のヒアリング的な会議を開くのはいつ頃かというのは未定ですが、それを経て案を作り、検討協議会に臨むというスケジュールになるとは思いますがよろしいでしょうか。
- 事務局： 今日は、かなり重い課題を頂いていると認識しています。我々ができる範囲は限られており、調整しなくてはならないこともありますので、第一回目を開催する時期は考えさせてください。そうはいつでも時間もかけられないので、資料の質が8割でもいいと許していただけるならそれで進めさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。あとは、脱炭素戦略とは実際どのように行うのかなど、会話レベルで認識合わせをさせていただきたいと思っています。
- 市民委員： ヒアリングで構わないので現場の声をまとめたものもないと、その二つの資料があれば色々話ができると思います。
- 会長： 市民委員の立場として周辺の住民の意向も把握されていると思いますので、それを案に取り入れるということもあります。そのようなものも事務局に送り集約する作業も必要になると思います。

- 副 会 長： こちらの資料をまとめている間にもご意見をいただければと思います。
 参加される方が限られたとしても 9 月には開催させていただければと思
 います。
- 会 長： 次回の開催は、事務局が適当な時期を設定したいということですがよろし
 いですね。
 事務局連絡はありますか。
- 事 務 局 特にありません。
- 会 長： それでは検討協議会を終了します。ありがとうございました。

一以上